<table>
<tr><td rowspan="3">委員会名称</td><td rowspan="3">第５回別府市立図書館及び別府市美術館整備基本構想検討委員会</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>協議日</td><td>2017.03.13</td></tr>
<tr><td>協議場所</td><td>別府市役所
5 階大会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td colspan="3">中山委員長、平石副委員長、中村委員、田中委員、鶴田委員、山出委員、須股委員
池田委員、豊田委員、加藤委員、明石委員、大鶴委員、大津委員、松岡委員
（アドバイザー）：花井氏</td></tr>
<tr><td colspan="3">別府市教育庁生涯学習課（事務局）</td></tr>
<tr><td colspan="3">アカデミック・リソース・ガイド株式会社</td></tr>
<tr><td>01.資料</td><td colspan="3">・委員会次第
・別府市美術館の移転について
・基本構想（案）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">02.検討事項</td><td colspan="3">第５回　別府市立図書館及び別府市美術館整備基本構想検討委員会</td></tr>
<tr><td colspan="3">要約：基本構想（案）の最終確認</td></tr>
<tr><td colspan="3">【議事】
■1　別府市美術館の移転について【報告】
（事務局）新聞報道もされたとおり、大分県の社会教育センター「ニューライフプラザ」に美術館の機能を移す。4 月 1 日に別府市が県から譲渡を受ける予定である。これは今回の基本構想とは別のものであることをご理解いただきたい。10 月を目処に展示物を移して開館を目指す。
（C 委員）市民のみなさんからの誤解もあるようだ。実態を知らせる必要がある。
（委員長）教育的な面からも展示をする場所は必要である。
（N 委員）記事を見て良い話だと思った。社会教育センターの施設をすべて美術館とするのか。
（事務局）西側はもともと市の持ち物であった。県が所有していた東側が譲渡される。基本的には美術館として使用する。
（N 委員）アルゲリッチハウスも近くにあるので合わせて活用していただきたい。

■2　ワークショップの動画の視聴
（委員長）ワークショップの様子を 3 分ほどのビデオにまとめているので、そちらをご覧いただきたい。
（動画の視聴）
（ARG）この映像は最終編集中である。関係各所でご覧いただけるように準備を進める。公開の際には事務局から委員のみなさんにお知らせするので、いろいろな方へ拡散していただければと思う。

■3　別府市立図書館及び別府市美術館整備基本構想について【審議】
（委員長）これまでのいきさつについて、事務局から説明をお願いする。
（事務局）第 4 回目の検討委員会で素案を配布し、ご意見やご指摘をいただいた。委員のみなさまには、事務局で修正をかけた案を 3 月 1 日にデータでお配りしている。その後、再びいただいた意見を集約し、3 月 8 日に集約を行った。さらに、3 月 10 日に修正案を事務局及び委員長、副委員長と協議し、修正したのが配布した構想案である。これまでのものから、市民にとってわかりにくい表現を削</td></tr>
</table>

	除・修正し、わかりやすい表現に変えている。第4章の3つのコンセプトが抽象的過ぎるというご指摘を受け、委員会やワークショップで議論した内容をコンセプトとした。ご指摘や修正案を本日いただければ、さらに集約をして修正をかける。 □第1章 **（L委員）**別府市立図書館を100としたときの指数を入れていただきたい。7ページの最後「図書館・美術館の一体的な整備」は、カギ括弧やフォント等を変更して目立つようにしていただきたい。 **（C委員）**図書館は別府「市立」図書館、美術館の場合は別府「市」美術館である。統一したほうがいいのではないか。 **（事務局）**現状の正式名称を第 1 章では使用している。名称については今後検討していく必要がある。 **（C委員）**そのことをどこかに付しておくべきではないか。 **（L委員）**共通する課題の箇所に名称の不統一を記載してはどうか。 **（C委員）**24ページの「検討していくべき課題」で触れてもよいのではないか。 □第2章 **（事務局）**本日の事前打ち合わせで、メリット・デメリットといった表現方法について、「デメリット」といった表現を避け、「可能性と課題」という表現のほうが今後につながるのではと委員長と協議をした。また、「運営の複雑化」を「運営の一体化」に変更したい。 **（P委員）**この施設は、図書館と美術館を一体化させる素晴らしさをもっと謳ってもいいのではないか。図書館、美術館を超えた新たな施設となる可能性がある。その部分を強調したほうがいい。 観光資源となるだけでなく、市のビジョンが大きく反映できることが可能となるということを盛り込むべき。課題は運営の問題でしかなく、ハードの問題では無い。組織の課題を乗り越えて、新しい取り組みをしていくことが別府市らしさであると謳うべきである。 **（C委員）**言葉の整理が必要。メリットに「～となる可能性」という項目があるが、この場合「可能性」が被ってしまう。 **（L委員）**（2）は資料が対象ではなく、専門性の広がりではないか。また、すべてを「～の可能性」「～の課題」とそろえたほうがいい。 **（P委員）**来館の活性化の前に、上位の可能性をいれるべき。各論から入ってしまっている。 **（C委員）**課題も同様である。 □第3章 **（事務局）**近隣都市の図書館・美術館の現状を当初は3章の最初に記していた。近隣都市から考えるのではなく、市民が望むものを前面に出したいという意見を頂戴し、構成を変更した。近隣都市の現状は、基本構想の資料として紹介する予定である。また、タイトルは期待と「役割」に変更した。さらに、「基本的な役割」の見出しを最初に持っていくように変更予定である。 **（委員長）**13番の項目について、現在の美術館には民俗資料が多くあるが、現在の表現だとすべて新しい施設に持っていくように見えるので、「今後さらに検討が必要である」という文言に代えたいと考える。 **（P委員）**章立ての作り方がわかりにくい。「あり方」という名前がわかりにくいのではないか。1章は今ある建物についての課題、2章は一緒にした場合どうなるかについて、4章はコンセプトなので、

	3章はどうやって決めていくのかのプロセスや、別府市はどんな場所かを明記すべき箇所ではないか。この部分にワークショップや委員会のプロセスを語るべきである。プロセスは図式にしたほうがわかりやすい。別府の良さが語られているが、別府の持つ課題は語られていない。良さと課題が相まって、委員会やワークショップの意見が取り入れられていくことを記すべき。4章のコンセプトに向けた宣言のようなメッセージ性があるので、「～になります」ではなく、「～にしていきます」という宣言のかたちにしたほうがいいのではないか。最後に追加された箇所は1つしか項目がないのでバランスが悪い。第4章のコンセプトをつくっていくプロセスを第3章では述べるべき。 **（C委員）**第3章の「1　別府らしい図書館・美術館のあり方」と第4章のタイトルが被っている。また、「別府市がもっているもの」の表現が、語尾が切れたようになっている。社会教育施設としての期待「と役割」となっているが、文化施設のほうは「期待」のみとなってしまっている。 **（委員長）**市民の声を載せるならそのままにし、まとめるのなら言葉を補ったほうが良い。 **（B委員）**構成の問題と思われる。委員会、ワークショップで出た意見と、期待と役割がつながってしまっているからわかりづらいのではないか。 **（P委員）**市が持っている課題がここに含まれているべき。誰の意見を取り入れて多角的に見ているか、それらをどのように集約させていくのか、といった図式があったほうがわかりやすい。ワークショップで上がってきた期待については、施設に対するものなのか、まちづくりに対するものなのか、混ざっている。 **（L委員）**14ページは竹垣でなく、石垣である。15ページの基本的な役割は、専門性について最初に持ってきてほしい。伝統工芸は竹だけではないので追加していただきたい。 **（C委員）**18ページは「箱物」としたほうがいいのではないか。 **（G委員）**学校「現場」と書かれているところが一カ所だけある。「学校」だけでいいのではないか。 **（N委員）**これからの流れなど、プロセスについて明記していただきたい。「まぜる教育」の部分は、ここで紹介しなくてもよいのではないか。 **（G委員）**社会教育施設として、の部分は役割が明記されているが、文化施設の役割を明記する場合の法律は何になるのか。 **（ARG）**文化施設についてはまとまった法律はあまりないが、「文化芸術振興基本法」で規定されている。文学、音楽、美術、写真、演劇等といった一般的な芸術に加えて、漫画、アニメーションおよびコンピュータや電子機器を利用した芸術（メディア芸術）等も含む文化芸術の振興について示されている。各自治体がこちらに基づいて法制度を整備していくことが望まれている。 **（C 委員）**「まちの歴史の見える化」と「の」が重なっているところなど、文章を整理したほうがいい。 **（F委員）**まずはプロセスを取り入れた構成に修正すべきではないか。 **（L委員）**委員会はこれで終了になるが、委員長に一任というかたちになるか。 **（事務局）**第3章は集約し直して、メール等で委員のみなさまに配布し、委員長、副委員長とで協議をして決定としたい。 □第4章 **（事務局）**コンセプトが抽象的過ぎるため修正した。(1)「にぎやかな」から「にぎわいのある」に変更。(5)はコンセプトの上位に来るビジョンとして頭出しをするのがよいのではと考えている。(4)こころを和ませる……は2番目にいれ、(1)のにぎわいと対比させるのがよいのではないか。「時間軸と空間軸」の部分は、市民にはわかりづらいのではないかということで削除している。「おわりに」

	は「4」番目に修正。 （P委員）「コンセプト」ではなくて、「基本構想」と言うべきではないか。箇条書きから始めるのではなく、頭文として思想を語る部分が必要である。また、「人や産業との連携」「まちとどうつながるのか」「提供されるべきサービス」「ハード（施設にどんな部屋がいるか）」という項目にまとめるべき。ワークショップで出た声はあくまで例である。今まで併設されにくかった施設である図書館と美術館とをどのように一体化させるかという思想を示せばよいのではないか。「どうやってつくるか・決めるか」「どうやって運営していくか」「おわりに」は4章の外に出すべき。「はじめに」には委員会の位置づけを語らなくてはならない。 （M委員）この会議は後期基本計画のコンセプトを決める場であると考えていた。意見をどこで出したらいいのか悩んでいた。この中にはハードの部分が記されていない。面積などは明記しておきたい。どのような書架にして、どのような蔵書を選ぶのかも図書館においては大切である。図書館長や美術館長を決めないと5年後には開館できないのではないか。この後の会が大切だと思うが、どのようになるのかをご説明いただきたい。 （事務局）後期基本計画、べっぷ未来共創戦略に基本構想の策定が記されている。基本構想に続く基本計画は平成30年度を予定している。基本計画になると、ハードの面なども検討していく。来年度は基本構想を市民のみなさんに理解していただく期間ととらえている。調査・研究として、具体的な整備の候補地、財源等を庁内で議論し、平成30年度に「基本計画」に移っていく予定です。 （M委員）そういったステップは市民にも理解できるように伝えていくべきである。 （事務局）議決として決まり次第、市民のみなさんにはお伝えできる。そのようなステップを機会のあるごとにお伝えしていきたい。 （委員長）市報などで、ロードマップを提示してもらえるのがいいのではないか。 （B委員）図式が足らないのではないか。プロセスの図式化が必要と考える。 （F委員）構想案がどのような位置づけで、どのような着地点になるのか、ロジックが見えるといい。わかりやすい見せ方、まとめ方が必要である。 （P委員）コンセプト、課題、まとめを合わせて「基本構想」とするのならそれでよいのではないか。 （D委員）3章と4章は全体的に説明不足であると感じる。起承転結を直していただきたい。細かい字句の修正も必要である。 （G委員）基本構想のページ数に制限が無いのであれば、もう一度練り直したほうがよい。 （B委員）市民の方には、A3中折くらいの概要版で伝えるのが良いのではないか。それがあればわれわれもポイントがはっきりするのではないか。 （P委員）計画が始まる前に、検討されるべき項目が整理されている中で議論を進めるべき。チェックリストなどがあるといい。 （J委員）基本構想には何を書かれるべきかよくわかっていなかったからかもしれないが、気持ち悪さを感じていた。それは図書館や美術館の素晴らしさが羅列されている点である。別府市に誇りを持つのか、絶望して市を去るのかはそれぞれ個人が決めるべきことであるが、この（5）の書き方では、誇りをもつような市民しか想定されていないように感じる。この案で想定されている人は、一人の人であるようにしか感じられない気持ち悪さがある。 （N委員）「おわりに」には、「ゆりかご」「すなば」といったよくわからない言葉が入っているが、それよりは、現在は予算化されていないことであるとか、今後の流れについて記したほうが良い。幼稚な文章であると感じる。 （D委員）J委員の話は若い人は共感すると思う。押しつけ感が無いような書き方が必要である。

	■4　今後のスケジュールについて **（事務局）**今回いただいた意見を集約し、文章等を構成し直した上で、委員長ならびに副委員長と協議の上、最終版としていきたい。来年度は庁内での検討を続けて、平成 30 年度以降に基本計画等に取り組んでいくこととなる。 **（M 委員）**せっかく今盛り上がってきているので、何も無いような状態が続くのは危険である。今後の動きなどを報告していく場が必要である。図書館を考える会のメンバーなどは大変危機感を持っている。議会に早く取り上げてもらえるように、下からはたらきかけていくことが大切である。美術館長や図書館長を早めに決めなくてはいけない。そのようなことと並行して構想、計画を進めていくべきではないか。 **（事務局）**基本構想を幅広く伝えることが大切であると考えている。市報では特集号を設けることを予定している。必要であれば直接出かけていって説明をするような場も設けたい。館長についてもすぐに決めるのは難しいところではあるが、どのように進めていくのかは検討していきたい。 **（ARG）**基本構想段階で館長をお迎えできるのは最もベストではあるが、構想段階で新たな雇用を生み出すことは難しい。計画段階で館長を決められることもまれである。建物の設計が決まってから招聘（しょうへい）できるのが他の自治体でも現状である。それを変えていけるのは市民の力である。 **（G 委員）**来年度、具体的に市民に対して市役所がどのように動くのか、生涯学習課が何をするのかを分けて説明されるとわかりやすい。 **（C 委員）**市民のみなさんにこれまでの経緯や今後の計画をわかりやすく説明していただきたい。市民の代表である議会のみなさんにも充分にご理解いただくことが重要である。 **（M 委員）**パネラーの人がいて話をするような場を設ければ、メディアの方も取り上げてくれる。議員の方にも参加していただきたい。ホームページだけでは市民も議会も動かないので、そのあたりの計画を生涯学習課に頑張っていただきたい。 **（P 委員）**図書館・美術館が一体化すること、市民と役所、市民と市民が近いこと、プロが寄り添っていることなど、とても恵まれた状態に別府市はあると考える。 **（委員長）**市報やホームページだけでなく、直接市民に語りかけるような機会を来年度は設けていただきたい。 **（花井アドバイザー）**たくさんの議論をいただき、ありがたく思う。3 章の構成の変え方によってかなり変わってくると思う。ここで議論されたことや、ワークショップで議論されたプロセスをより丁寧に記すべきである。一年というのはかなり時間が長いものである。その中で、火をともしたものを消さないために、予算がなければ市民レベルでも考える会をしていくなど、議論をつなげていければいい。